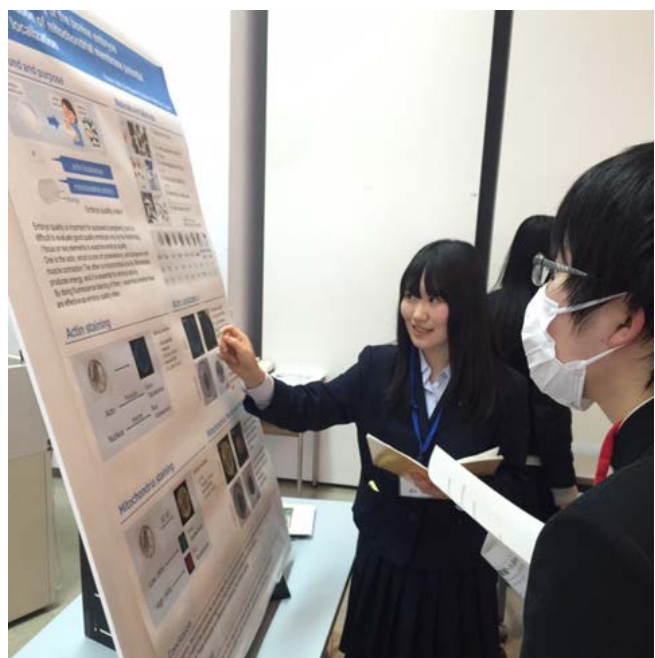


米沢興讓館高校SSH通信



今号は、新潟市で開催された「第5回北東アジア環境・エネルギーシンポジウム」と、岩手県盛岡市で開催された「第57回日本植物生理学会年会高校生物研究発表会」の様をお伝えする。

北東アジア環境・エネルギーシンポジウムへの参加はコアスーパーサイエンスクラブ(CSS)のメンバーが、日本植物生理学会への参加はスーパーサイエンスリサーチ(SSR)で「紅葉する意義：アントシアニンの抗菌効果」を研究してきたグループ(通称：紅葉班)がそれぞれ参加した。



北東アジア環境・エネルギーシンポジウムに参加して
3年理数科男子(宮内中出身)

私達CSS部は新潟県立新潟南高等学校主催の北東アジア環境・エネルギーシンポジウムに参加した。このシンポジウムは日本、中国、韓国、ロシアの高校生が一堂に会し、環境・エネルギー問題をテーマにした研究成果を英語で発表・意見交換するというものだ。私は「3Dプリンタを用いた逆立ちゴマの製作」という研究発表をした。この研究は城戸淳二塾の一環として、山形大学工学部のご協力のもとに行ったものだ。外国の方を前に英語で発表するのは初めてであり、とても不安だった。発表中や質疑応答の際には言い間違えることがたびたびあったものの、多くの人と意見交換をすることができ、とても有意義な時間であった。

この行事を通して世界共通語である英語の必要性、そしてエネルギー問題の解決のために広い視野をもって問題を認識、考察、共有することの重要性を感じた。

第57回日本植物生理学会参加者の感想

日本植物生理学会に参加して 3年理数科女子(米沢1中出身)

私たちは、3月20日に開催された日本植物生理学会に出席してきました。この学会では、全国から集まった、植物生理学に関する研究を行う学生が研究発表を行います。同じように各地からいらした大学生や教員、サイエンスアドバイザーの方々からの助言を拓残いただくことができます。様々な学校の発表を見ていると、発表者が自分の発表内容についてよく理解していることがどれほど大切かわかります。したがって、研究を進めていくうえで、その研究を始めた目的から逸れず、一つ一つの実験に対して意味をよく考え、目的をはっきりとすることが必要になります。私たちが研究を進めることができる時間は大分少なくなりましたが、後輩には研究の目的についてきちんと伝えていきたいと思ひます。

研究というと、難しく聞こえますが、自分の興味を持ったことや、知らないことを知ろうとしていくという点では、普段の勉強と変わりありません。未知の事を解き明かしていく楽しさを自分たちだけでなく、色々な人に広めていきたいです。

